



# 広島県支部会報



平成27年3月15日

## 第74号 いのちを守る「防災体験会」

日時： 2015年3月15日9時50分～13時

場所： 三原市立田野浦小学校

主催： 三原市防災ネットワーク（構成13団体、三原市防災士会含む、）

協力： 三原警察署、三原市教育委員会、三原市田野浦消防団、三原市青年会議所

支援： 日本防災士広島県南東部支部

参加者：250人

開会挨拶： 三原市防災ネットワーク会長糴谷節夫氏

「地域の防災の日常化」と「普段からみんなで防災を考えいざという時に助け合うことが大切」と挨拶があった。

### 〔1〕防災講演

演題<1>： 三原市を襲う「地震・津波・土砂災害！」—知っておく事、備えておく事—

講師： 三原地震防災リサーチネット 防災士 桑木光信

要旨： 三原市は自然災害に対して安全ではありません。想定されている自然災害に対して知識と備えが必要であり、地域を守り、安全に暮らすために重要な事です。  
広島県では「災害死ゼロを目指した県民運動」が計画されています。安全で安心なまちづくりに向けて取り組みが課題です。 講演の要点は下記の通り；

#### 1. 地震、津波への備え

(1)「南海トラフ巨大地震」の三原市への被害影響！

・地震発生後、津波が襲う ・市街地は埋め立てで液状化発生 ・堤防は破堤する  
（高さ25%以上） ・地盤の低い地域が多く ・津波の浸水被害地域が多い

(2)「地震、津波の三原市への被害想定！」

・震度6強、津波高さ3.2mが押し寄せる ・死者1,044人（内、建物167人、津波876人）  
・建物全壊 5,242棟（内、揺れ2,632棟、液状化1,620、津波988棟）  
・経済被害4,718億円（H27年三原市482.8億円）

(3)「地震、津波」から命を守る備え！

・日頃の防災知識： 地震と津波の違い、堤防の機能、自宅の標高、避難所と経路  
・日頃の備え： 自宅の耐震性、家具の固定、転倒防止、非常持出品袋、  
災害弱者の避難支援、防災訓練への参加

#### 2. 土砂災害への備え

(1)「広島土砂災害」の教訓！

- ・深夜、局所に集中豪雨が発生。8月20日深夜、当日雨量283mm、時間最大雨量121mm、累積雨量319mm → この数値は貴重な判断値！
- ・死者74人、建物全/半壊360戸、避難対象人数159,952人
- ・発災後7ヶ月経った、被災を教訓として地域住民、自主防災会の意識や活動が活発化

(2)三原市の昭和42年の集中豪雨災害と宗郷谷の大水害記録

- ・S42年の集中豪雨(1967年7月9日) 累積雨量230mm(県土木三原計測)  
全市が被害、死者20人、崖崩れと土石流、河川の破堤など
- ・48年前の宗郷谷の被害写真と水害記録と後世への申し伝えは貴重

(3)「土砂災害」から家族や地域を守る備え

- ・日頃の備え：自宅周囲の危険箇所把握、ラジオ、TVの気象情報に注意、危険を感じると早めの避難、外に逃げられない時は家の安全な所2階に避難、連絡先に状況知らせる、非常持出袋準備
- ・こんな時は危険：①土石流：異様な濁り、溪流の転石音、地鳴り  
②がけ崩れ：小石が落下、湧水の濁り、噴出、斜面のハラミだし  
③地滑り：樹木の傾き、根が切れる音、地鳴り、地面の震動
- ・異常を感じたら直ぐ避難！空振り安全だったと喜ぶ！

詳細は「いのちを守る防災体験」講演概要を参照

演題<2>：災害を正しく知り、正しく恐れ、正しく備え、速やかに行動しよう！

講師：三原市福祉のまちづくり推進協議会副会長 鑑本智昭

1. 地域を知ろう

- (1)三原と干拓や埋め立ての歴史
- (2)中世の海岸線“水”のまちみはら
- (3)地域の地形 山・川・水の流れ 地域の“土砂災害”の歴史
- (4)災害リスク → 浸水、液状化、土砂災害

2. 状況は変化する 発災から再建までの生活の流れ

- (1)時間経過 → 3時間、3日間、3週間、30日、3ヶ月  
初動期 展開期 安定期 撤収期
- (2)被災者 ← 自助 → 避難生活 → 生活復旧 →
- (3)地域活動 ← 互助、共助 →
- (4)地域外 ボランティア支援 →
- (5)行政支援 公的支援（公助） →

3. 減災の基本原則と地域の活動

- (1)阪神淡路大震災からの教訓
  - ・その時点で最良と思うことを自分の責任で行った
  - ・何が出来るかを考えて行う災害時の原則
  - ・指示待ちでは何もできなかった

(2)地域の自主減災活動

- ・ 発災初動期は「自助、互助、共助」が基本
- ・ 積極的に、自主的に“避難行動”しよう
- ・ 地域が協力しあい、自ら“避難所運営”出来る力を築く

〔2〕防災体験訓練 → 末尾の写真参照。

どんな災害でも共通した基本的な訓練が必要、頭での理解のみでは役に立たない、身体で覚え、反応できる事が大切である。いずれの訓練も家庭や地域で役立つ訓練とした。

防災展示コーナーでも家族で役立つものを選び、備えの参考となるものである。

- 〈1〉初期消火 ・ 初期消火は災害の基本
- 〈2〉簡易担架 ・ 高齢者、病人、身障者など簡易担架による避難者への対応
- 〈3〉車椅子操作 ・ 同上の歩行困難者の避難搬送への対応
- 〈4〉土嚢つくり ・ 土砂災害、洪水などへの対応

〈5〉防災展示 → 末尾の写真を参照

- ①家具固定、転倒防止対策
- ②非常持出品
- ③非常食品
- ④液状化モデルシミュレーション
- ⑤土石流モデルシミュレーション
- ⑥写真展示 ・ 地震発生メカニズム、・ 東日本大震災被害、・ 広島土砂災害

〔3〕防災カルタ → 末尾の写真を参照

自然災害や防災・減災への関心を高めるため三原市になじめる災害用語、地名などを  
使ったカルタを作成した。楽しく学べる防災カルタ取りは参加者の関心が高かった。

〔4〕炊き出し → 末尾の写真参照

赤十字奉仕団により災害時の非常食の試食と炊き出し作業を兼ねて行われた。  
250 食分が作られた。

あとがき：

今回の三原市防災ネットワーク主催の防災体験会は昨年 8 月 20 日に発生した  
「広島土砂災害」を身近な教訓として「南海トラフ巨大地震」による地震、津波への対応  
に加え、「土砂災害」への防災知識と備えに向けて講演、訓練と展示を企画実施した。  
特に三原市への想定被害、更に大雨、豪雨、土砂災害史や被害事例を示した。  
市民の皆さんの防災意識が一段と高まり、市民、行政、関係機関が協力して安全なまち  
づくりに取り組みたい。  
(広報担当桑木光信)

参考写真：



初期消火器の使い方説明



簡易担架による負傷者の搬送





車椅子の操作訓練



土嚢づくり訓練







非常持出品の説明



家具固定、転倒防止用具の展示



女性防災士による非常食品の説明





土石流のシミュレーション

液状化シミュレーション

家具転倒防止用具

壁面には地震発生メカニズム、 東日本大震災津波被害写真、 広島土砂災害写真を示す。



テーブルには防災展示品、土石流、液状化シミュレーションなどの説明の様子





防災カルタゲームに取り組む様子



炊き出し試食おにぎりを作って配付準備



日本防災士会広島県支部 三原防災士会の皆さん